LUZ の熊野古道案内

2006 年　10 月

10 月 1 日　～　12 日

je2luz.exblog.jp

目次

２００６年　**10** 月

10 月　１日
10 月　２日　とっさの時どうする？　風
10 月　３日　とっさの時どうする？　雷
10 月　４日　とっさの時どうする？　雪・凍結
10 月　５日　とっさの時どうする・・・台風は遠くても
10 月　６日　・・・陸の孤島に戻っていたようです。
10 月　７日
10 月　８日　熊野の秋　**1**
10 月　９日　熊野の秋　**2**　木本祭り・新出町
10 月１０日　熊野の秋　**3**　木本祭り・栄町
10 月１１日　熊野の秋　**4**　新田元宮太鼓
10 月１２日　熊野の秋　**5**　親地町六方

2006年　10月　02日

熊野の旅　とっさの時どうする？　風

ここ紀伊半島の南の方でも、潮岬から向こうは山の西斜面になり、こちら側は東斜面になります。そのため、風と言う面に関しては結構差があるようです。

風に差が出るということは台風の時の雨の降り方も違うようで。こちが側の東斜面の方が近づく台風の風が山に当たる、風の運んでくる雲が山に当たる、と言うことで雨が多くなり、集中豪雨も起きよい様です。来る時の風が少し弱い西斜面の所も通り過ぎてからの返しの風は真直ぐ当たるようです。

この違いは、台風の時だけでなく年間を通しての風にも違いがあるようです。

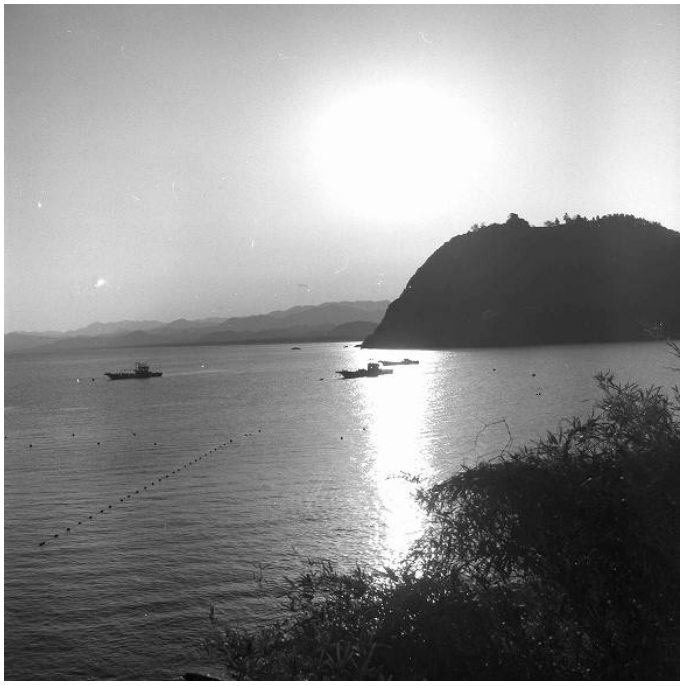
紀伊山地はせいぜい1000m級の山があるだけで日本アルプスのような高い山が連なっているわけではありません。ほぼ全山緑に包まれた山々のものすごい固まりが紀伊半島のほとんどの部分を占めているのです。

この山々が適当に風を和らげているのか、この辺は台風以外の時には割りと風は穏やかです。季節風も上州の空っ風のようには吹きません。

だからだと思いますが、この辺りの山では尾根に生えた木々は背は伸びず少々いじけては居ますが、きちんと緑の葉を付けた物です。風の強い地方のように天辺が枯れ枝になるようなことはほとんどありません。西斜面に行くと周参見の近くには『枯木灘』と呼ばれる所があり、そこを望む海岸の木々の天辺は見事に枯れ枝状態です。塩を含んだ返しの風にでもやられるのでしょうかね。台風の来る時の風はほとんどの場合雨を伴っていますから塩害はおきないのです。

この地方はこうして風に関しては穏やかな所です。特に三重県側の熊野古道は海に近く、東斜面を通りますから冬の季節風がほとんど吹き込まないので真冬でも歩けば汗ばむようなルートです。

ただ、台風シーズンには充分気をつけないと大木を根からひっくり返すような風が吹く時があります。直撃の台風は減っている感じですが、何処を通っても台風の風はこの山に当たります。年に数回のことですがこの時だけは熊野古道散策には来ない方が良いでしょう。



穏やかな冬の海です。
遠くに見える山並みが来たからの風を弱めてくれるからです。
Tags:熊野市 熊野古道 クラシックカメラ by **je2luz** | 2006-10-02 14:02

2006年 10月 03日

熊野の旅　とっさの時どうする？　雷

日本中、この厄介なもののないところは無いでしょうね。
地震・雷・火事・親父・・・だそうで、順位も二番目だそうです。それだけ怖い物です。
パソコンをやっているときは遠雷でも油断は出来ませんが、旅行中も遠雷でも気をつけてください。
熊野古道歩きは山道を歩く訳ですから逃げ込む建物などありません。困ったものです。
幸いなことに、この辺りの雷さんは寒いのが嫌いなようで、現れるのは夏場です。裏日本の『雪起こし』ように真冬に、それも晴れた空からいきなり落ちてくるようなことはありません。作法どおり入道雲や真っ黒な雷雲から落ちてきます。何処に落ちるかは雷さんの気分次第ですが、雷さんが居ることは予測できます。
この熊野周辺の雷さんの通り道は気流の関係か、海の上を火柱を上げながら通り過ぎることが多いです。我が家の二階からはそれが見えることがあります。運の悪い魚は直撃を受けるのかなあ…なんて考えたこともあります。
あとは海から山に向かって入っている谷沿いにあがって行くときもあります、上がりながら落ちるのは割りと高い所が多いようです。それでも谷底の木に落雷の跡があるときもあります。まさに、雷さんの気分次第のようです。

熊野古道歩きの途中でゴロゴロ言い出したらどうするか？？？
尾根からは降りた方が絶対にいいですね。普通には東屋などで直撃を受けたら外周の柱を通って地中に電気は抜けるはずですが、人間の体は導体ですからそちらを通ってもおかしくない…やっぱり、松本峠の見晴台の東屋はやめたほうがいいでしょうね。

山の中腹とて安全とはいえませんが、その辺りでひときわ高い木の近くだけを避けて通り過ぎるのを待つしかないでしょうね。
本当に雷は厄介で怖いものです。夏の間は一応頭に入れておいたほうがいいでしょう。これは熊野古道歩きだけではないですがね。ここよりだだっ広い平野部の方がはるかに怖いようですね。

Tags:熊野市 熊野古道 モノクロ by **je2luz** | 2006-10-03 14:31

2006年 10月 04日

熊野の旅　とっさの時どうする？　雪・凍結

南国熊野にはふさわしくないタイトルのようですが、これは切実な問題なのです。

国道４２号線も伊勢の方から海岸線を走っているようなイメージですが、実際は松阪からは志摩半島の出っ張りを通らないで内陸部をショートカットしてきています。紀伊長島？？紀北町？？で再び海のそばに出るのですが深いリアス式の海岸なので大きな岬をショートカットして山越えルートを通ります。そのため。冬になると雪が降ることもあり、寒い夜には路面の凍結もあります。

これを口実に『尾鷲一熊野高規格道路』の認可が下りたのです。公団の高速道路ではいつになるか分からないと言うので、衆議院議長までやった旧三重県二区の大物代議士がねじ込んだものです。国の直轄の国道バイパスとして山間部ではなく海岸沿いを抜けるルートで着工されています。熊野の花火の日以外はがらがらの国道４２号線にバイパスですからどれくらいの車が走るのやら…

とにかく、国が認めるほど雪がかかって？交通障害の出るのが尾鷲と熊野の間にある矢ノ川峠なのです。

矢ノ川峠は『矢ノ川トンネル』『大又トンネル』の長いトンネル二本で昔の海抜808mの峠越えから400mくらいまで引き下げられました。

直接海が見えないにしても尾鷲側と途中の賀田側はほとんど雪も積もらず凍結もありませんが、山間部になる熊野市大又側では年に数回は雪が積もり、厳寒期にはのべつ凍結します。

この熊野市大又地区は山一つ隔てた海岸とは冬の夜中では５℃も温度差があります。この温度差は氷点をはさんでの温度差になるので全く違う世界になります。海岸側では霜も降りないのに山側では毎日霜で真っ白です。

この周辺はこの山間部を除いてこうした条件の所はありません。そして、地元民はこの区間を走ることはめったに無いのです。

つまり…この辺のドライバーは凍結とか言う条件にものすごく弱いのです。一旦こうなると普通のドライバーはお昼ごろまで待って解けてから尾鷲のほうに向かいます。しかし・・・中には怖さも知らない南国の運転手も居ますから…『何処へ行くかは車に聞いてくれ・・・』と言うのが居ます。雪が降ったりすると事故の山です。

日本でも冬になればスタッドレスが常識ですが、この辺では山間部の人とスキーにでも行く気のある人以外ではノーマルのままのことが多いのです。

厳寒期に山間部を走るときは国道４２号線でも夜は凍結があるものと考えてください。始末の悪いのは回りに雪があるなんて予告が全く無いことです。特定の日当たりの悪いカーブだけが凍結するのです。凍結防止剤はほとんどの場合撒かれていますが絶対ではありません。尾鷲熊野間 35ｋｍで乾いていても凍結するのは４箇所ほど全部でも１ｋｍも無いくらいです。それでも、そこで事故はおきます。

真冬の夜間走行は出来るだけ避けたほうが良いですね。

国道 169 号線や１６８号線・３１１号線は紀伊山地を貫く道路ですから平地の雨が雪になりますから、天気の悪い時は国道事務所や地元の役場に電話でもして確認した方が良いでしょう。こんな田舎の国道区間は道路情報なんて全く役に立ちません。

通れなくなったらお昼まで待つことです。少なくとも４２号線で終日通れないなんてことはありません。日が登れば凍結も大雪も解けますから…

道の駅　『熊野きのくに』　凍結区間と凍結区間の真ん中にあります。このそばも準凍結区間です。熊野で一番寒いとも言われます。ここから 600m熊野側と約 1.5Ｋｍ尾鷲側が最大の凍結ポイントです。お気をつけて・・・

カメラは　**イコンタ 521/16**

Tags:熊野市 国道４２号線 モノクロ　　by **je2luz** | 2006-10-04 13:32

2006 年　10 月　05 日

熊野の旅　とっさの時どうする・・・台風は遠くても

今日現在、台風ははるか海のかなたにあります。そして目の前に秋雨前線が横たわっています。

昨日から雨が降り出し、夜中にはかなりの雨が降りました。

この雨は台風が前線を刺激して降るものです。台風が遠いので風はまだほとんど無い状態で雨は音を立てて降ってきます。

先日書いた台風の余波の一つですが、こんな時でも豪雨地帯のこの辺はよく降ります。

以前は雨量計の設置されているのは幹線国道の 42 号線だけだったのですが、今では 169 号線 168 号線などにも設置されています。これらの国道は崖が崩れて通れなくなるまで通行可能だったのですが、今では通行止めになります。

良く降ったとはいえこの辺では普通に良く降った程度ですが、山間部ではもっと多かったようで、今は国道 169 号線が通行止めになっています。

この通行止めは前にも書いたように雨がやんで二時間経過して何事も無かった時にやっと解除されます。

つまり、通行止めにあったときはさっさと諦めて休憩場所を探すことです。よそに比べ、この辺りの通行止めになる所にはドライブインなど無いので引返さなくてはなりませんが、引返してでも休んだ方が利口です。順番待ちしないと損をするほど車の列も出来ません。引き返して美味しいコーヒーでも飲んでゆっくりしてください。

くれぐれも谷の部分や高い切り取り斜面の部分に車を留めて待たないでください。危ないですからね。

吉野郡上北山村河合の道の駅・・・169 号線、山のど真ん中にある小さな道の駅です。温泉も併設されているし、頑丈そうな建物なので休んでも大丈夫かと・・・

Tags:クラシックカメラ 熊野市　　by **je2luz** | 2006-10-05 14:01

2006 年　10 月　06 日

熊野の旅　・・・陸の孤島に戻っていたようです。

おとといからの雨、昨日辺りは台風の影響もあって秋雨前線が結構活発に活動したようです。

それでも、ものすごく降っているような感じはなく、時々は止んでいたのですが、山間部の雨量がものすごかったのか外に通じる道路が段々閉鎖されてゆきました。

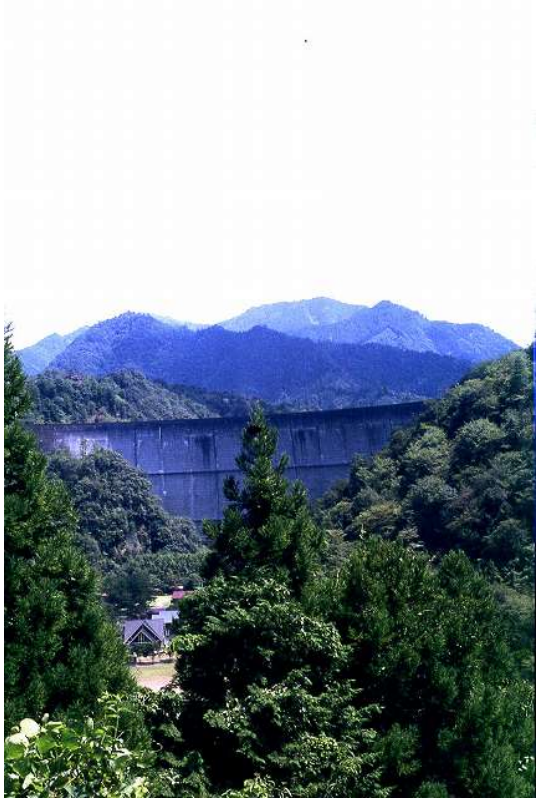
雨量計が設置されて閉鎖されるシステムのある国道がとまりました。

お昼ごろには国道１６９号線が奈良県境にかけて閉鎖、夜になると国道４２号線が熊野市大又から尾鷲市矢の浜までが閉鎖、続けて国道３１１号線も閉鎖・・・市内の国道が全部通行止め区間があることになりました。それでも、市内をうろつくのには支障の無いところばかりです。

ここまで閉鎖されるとこの地区は半分陸の孤島に戻ります。

雨量計の感度がよくなったのか、最近通行止めになる回数が増えたように思います。それに、感じる雨の量よりはるかに早く閉鎖なります。自動計測で計測用のカップに一杯になるとカタンと傾いて水を捨て電気信号を送里、その回数で時間雨量を測る方式だと思います。まさかカップが小さくなっちゃったはずもないし、古くなって感度が上がるなんて無いでしょうし…短時間雨量が増えたのでしょうかね。ここは温帯の南限に近いですから、温暖化が進めば一番先に亜熱帯性の雨が降る訳です。

気候が大きく変われば、いままで平気で耐えてきた豪雨がさらに大きくなり耐えられなくなるかもしれません。



去年は水はけの比較的良い、豪雨慣れした尾鷲市内が冠水しましたしね。

明治時代、本宮大社が流され、十津川村が大挙して北海道に渡ったような豪雨が襲うことがあるのかもしれません。

いつも空っぽの北山川の池原ダムは別にして他のダムは果たして洪水調整能力があるのやら…ダムの下流に住む人たちは心配ではないのでしょうかね。

どう言う訳か、不自然なほどいつも空っぽの池原ダム・・・日本でも指折りの大きさですから洪水調整能力は間違いなく大きいでしょう。

Tags:熊野市 クラシックカメラ 国道４２号線　　by **je2luz** | 2006-10-06 13:52

2006 年　10 月　08 日

熊野の旅　熊野の秋　1

秋雨前線がどこかに行ってくれたので、秋晴れの気持ちのよい天気です。

日本中このシーズンは祭りだ運動会だと行事の山でしょうね。

この地方でも最近の運動会が早くなってしまい、ほとんど終わったようですが、祭りがどんどん行われるようです。

今日はここ木本町の木本神社（鬼の元神社）のお祭りです。

この祭りはどちらかと言うと子供と飲んだくれのお祭りです。

だんじりだ山車だと出し物がありますが、それぞれは小さくて引っ張り手が子供と言う町内と子供が乗っていて大人が担ぐ所とあります。

昔はこの祭りの関係する小学校の生徒数が 1500 人も居たので賑わいましたが今は 150 人を切るような状態ですから、まるで賑わいません。

子供が騒げば親だ爺婆だと見物人も出るのですが、今では見物人なんてぱらぱらで

すね。暴走族でもそうですが見物人が居ないと盛り上がらないんです。
　今からカメラを担いで写真を撮りに出かけます。見物人を掻き分けて前に出なくても気楽に撮れますからね。
　今日持ち出すカメラたちが世に出た頃はこの祭りも賑やかだったのですが・・・・

Tags:熊野市 クラシックカメラ モノクロ　　by **je2luz** | 2006-10-08 13:06

2006年　10月　09日

熊野の旅　熊野の秋　2　木本祭り・新出町

　昨日は木本神社のお祭りでした。
　このお祭りは木本発祥の地、『親地町』の鎮座する『木本神社』の御神体を神輿に載せ、町内を通り、町の反対側の『新出町』にある『稲荷さん』まで来てもらい、一休みした後で浜に出て海で清め、波打ち際を通って神社までお帰りいただくというものです。
　この祭りはなんとも時間のかかる祭りなのです。
　朝８時ごろには『新出町』の『だんじり』が御神体を迎えに出発します。だんじりと言ってもすごく小さなもので引き手は子供達です。岸和田のように走るのではなく伊勢温度にあわせてのんびり歩きます。保育所くらいの子供まで綱を引くのです。

WERRA 3　テッサー50mm

祭りの形式としては、『新出町』が一番の役町になります。新出町のだんじりが出発しないと祭りが始まらないわけです。露払いですね。

このだんじりは真直ぐ神社に向かわずに大きく迂回して記念通りに行き。丁度町内を一巡りする形で木本神社に入ります。その行程で出し物のある各町内のものを後ろにつけながら進みます。『井筒町・子供みこし』、『栄町・よいや』、『新田・元宮太鼓』と合流して進む行程は約 1.3Km ほどでしょう。所要時間４時間ほどです。おそろしく遅い行列です。遅いことではギネス級でしょうね。このだんじりが木本神社に入るとお昼になります。

新出町には『獅子舞の奉納』と言う行事もあります。それが終わると順番に神社の到着し前の浜でお昼ご飯を食べます。これは各町内で用意する炊き出しです。

ご婦人達はこの弁当作りと男衆の酒の用意でてんてこ舞いです。

レチナ３ｃ　カータークセノン３５ｍｍ

何処の祭りでもそうなのでしょうが、男は飲んだくれて表舞台へ…女は下働きで舞台裏…なのです。

町内の寄り合いでも時々不満が噴出すそうです。昔は前の日、当日、あくる日と三日間も酒飲みのアテ作りなどに狩りだされていたようです。

時代が変われば怒り出しますよね。

Tags:熊野市 クラシックカメラ モノクロ　　by **je2luz** | 2006-10-09 14:28

2006 年　10 月　10 日

熊野の旅　熊野の秋　3　木本祭り・栄町

木本には字に当たる町名が付いています。

新出町、井筒町、栄町、親地町などと言うものです。この字名は土地台帳のほうには少し違っていたりしても存在しますが、今の行政上の地名には存在しません。木本町は山林を除けばものすごく狭い所ですから番地だけで充分なのです。しかし、この小さく区分けした町名と言うものは地元の人間には分かりよいので一般には良く使われます。私などは『新出町の〇〇』です。などといいます。住宅表示になっていないので、番地で言っても大体の場所では分かる人のほうが少ないですからね。

この区分けした町名の一つの栄町は木本のメインストリートの記念通りをはさんだ両側で結構戸数も多いところです。ここも、記念通りが出来て商店が並んだりするまではほとんど田圃だったようです。

栄町の出し物は『よいや』と呼ばれる神輿のようなものです。子供が乗った輿を担ぎ、『よーいや』の掛け声と共に高々と差し上げるるのです。その掛け声が呼び名になったようです。

この『よいや』は肩で担いで気合と共に差し上げると言う結構きつい出し物です。

昔は町内の若い衆がこれをやり、旦那衆は付いて歩くだけだったのですが、今では跡継ぎの若い衆は居ませんから。旦那衆のはずの人たちも現役を引退できずに担ぎ手に回っています。

最初のうちは跡継ぎが木本町外の井戸町や久生屋町に家を建てて住むと言うパタ

ーンでしたから、祭りの時には帰ってきて参加できたのですが、高度成長以降はそんなものではなく、熊野市から出て都会に住むようになったので祭りだからといって帰ってくることはなくなりました。

それと、肩を使ったり重いものを持ったりしたことの無い年代になってくると『担ぐ』と言うことも大変なことになってきています。

『よいや』は屋根が布団になっています。転倒対策というわけではないのでしょうが少し変わったものです。

今でこそか継ぎ手の馬力がなくなってきておとなしい物ですが、かつては差し上げるだけではなく、ぐるぐる回ったりし、下に下ろすのもそれこそドスンと落とすときさえありました。乗っている子供も大変だったものと思われます。

こうした役をやる子供は当然町内で選ばれます。学年も人数も決まっていますから、昔は選ばれるのが難しいくらいだったのです。今は、町内で賄うのが難しくなっています。

これは後の記事に登場する『ろっぽ』のほうがもっと深刻な状態です。木本全体で一学年２０人を切るくらいですから・・・

上二枚は**レチナ３ｃ　カータークセノン３５mm**
下一枚は **WERRA 3　テッサー50**mm
Tags:熊野市 クラシックカメラ モノクロ　　by **je2luz** | 2006-10-10 13:09

2006 年　10 月　11 日

熊野の旅　熊野の秋　4　新田元宮太鼓

木本の山手に『新田』（しんでん）はあります。

今は、三重県立木本高等学校がでんと座って一般民家は山にへばりつくようにたって居ます。この学校敷地が田圃だったようです。

近年はあまり洪水に見舞われていませんが、以前はここを流れる『西郷川』があふれて。高等学校の敷地まであふれ出したものです。

この新田の山に木本神社の元宮があります。今は敷地跡と小さな祠しかありませんがそこに木本神社は在ったと言われています。そこなら津波や高潮に流される心配は無かったでしょうね。

新田の出し物は子供達の叩く『新田元宮太鼓』です。この出し物は何時頃始まったのやら・・・

少なくとも今の形式になったのはそんなに古くは無いと思います。

ご神体を載せたらしき山車の後に、たくさんの太鼓を積んだ超大型のリアカーにハッピを来た子供達が乗り込んで太鼓を叩き、太鼓を叩かない子供や大人達がそれを引っ張るものです。この太鼓叩きは男の子も女の子も居ます。今では学年も問わず乗っています。ここでも子供の数が減ったことが影響しています。

新田地区は高等学校に平地をとられたので住宅が建つのが遅かったのですが、戦後になって残された田圃が宅地に変更され新しい家が建ったので一時はたくさんの子供が居たものです。大阪の千里ニュータウンじゃないですがその新興住宅群も今では老齢化が進んできています。一代限りの住宅になるものも出るようです。

この新田の元宮太鼓が行列に合流するのは 11 時ごろになります。そして、この元宮太鼓が最後尾となって木本神社に向かう訳ですが、その距離約 500ｍですが、進まないこと天下一品に行列ですから神社に入れるのは 12 時半頃でしょうか…それまで

の間道路は交通止めです。つまり。この日に熊野古道歩きで松本峠に来られたら、自家用車はお昼までまともに松本峠の木本側入り口に近づけませんし、タクシーも迎えに行けません。お昼過ぎにはそちらは通れますが、今度は夕方まで本町が通れなくなります。

9 月の第二日曜日は松本峠はものすごく遠いと思ってください。

カメラは**レチナ 3ｃ　カータークセノン３５mm**

Tags:熊野市 熊野古道 モノクロ　　by **je2luz** | 2006-10-11 14:07

2006 年　10 月　12 日

熊野の旅　熊野の秋　5　親地町六方

今では木本祭りの代表的な出し物になっているものに『六方行列』があります。

これは奴さんの格好をした子供達が大名行列よろしく行進するものです。

この出し物は木本神社の鎮座する所、木本の発祥の地、『親地町』の物です。

親地町は西郷川の河口にある元々漁師の町でした。

黒潮が運んだじゃりが堆積して出来た木本などでは海岸近くでは地面が砂利なので井戸を掘ることが難しく、例え掘っても塩水が逆流してきます。そのため。このように川があるところでしか水を得ることが出来なかったのです。そして、ここなら西郷川の伏流水で井戸も真水が取れたのです。ここの別名を『おやいど』と言います。これは『親井戸』なのです。木本は発展して浜街道沿いに今の本町が形成されて行っても水はここに頼っていたのです。

この親地町は住居が密集した所で人口も多いのです。そのため子供の数も多く、大勢の六方の役者も中学生だけで編成してもはるかにオーバーしたものです。だから、

この六方に選ばれるのはものすごい名誉なことだったのです。

　この写真で見てもらえば分かりますが、行列の後ろの方では作り物の小さな火縄銃でさえ大きすぎるような子供が歩いています。とてもとても中学生には見えません。
　いつも書いていますように木本町全体の子供でも一学年２０人を切るほどになってきていますから、その一部の親地町だけとかではまるで足りないのです。その結果、小学生の低学年まで出番が回ってきたのです。
　この六方は戦前から続くものらしく今では伝統の物です。お城も無く殿様も居ない、おまけに参勤交代の行列など通らない熊野古道・浜街道の田舎町に大名宇行列のまねごとがあるのですから…そう、伝統の…ですが、残念ながら由緒正しき…ではないのです。
　それにしても、これも何時まで続けられるのか心細いものです。
　熊野の土産に『六方行列』をプリントしたＴシャツがあります。凝られた時はお土産のどうぞ・・・
カメラは**レチナ３ｃ　カータークセノン３５ｍｍ**
Tags:熊野市 熊野古道 モノクロ　　by **je2luz** | 2006-10-12 11:23